

## 過疎地域における寺院経営の変容と現状：鹿児島県の甑島と種子島の事例を中心に

著者	星野 元興
ファイル(説明)	博士論文全文 博士論文要旨 最終試験結果の要旨 論文審査の要旨
学位授与番号	17701甲人社研第25号
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10232/23698">http://hdl.handle.net/10232/23698</a>

平成27年2月8日

鹿児島大学大学院人文社会科学研究科長 殿

最終試験の概要及び結果報告書

地域政策科学専攻 氏名 星野元興

学位論文題目

過疎地域における寺院経営の変容と現状—鹿児島県の甕島と種子島の事例を中心に—  
(Temples and Change in Depopulated Regions: A Case Study of the Islands of Koshikijima and Tanegashima in Kagoshima prefecture)

最終試験の概要

学位(博士)論文に関する最終試験を平成27年2月8日に実施した。まず、申請者による学位申請論文の内容説明の後、下記4名の審査委員から論文内容についての質疑と、申請者による応答を行った。

申請者の論文は、近年、多くの先行研究で、過疎地域を中心に寺院の経営危機が論じられていることについて、その根拠が十分にしめされていないことに疑問を呈し、過疎地の寺院経営の現状と課題について、下甕島と種子島の事例を中心に、宗教人類学的観点から解明を目指した事例研究である。

最終試験では、まず、先行研究における論文の位置づけや問題設定、現地調査による一次資料や各種資料、緻密な論文構成などが妥当なものとして評価された。最も高い評価を得たのが、寺院経営研究でこれまでほとんど議論されることのなかった「思慕」という概念にたどりついた点が極めて独創的であることと、「廃寺」に関する数少ない体系的かつ先駆的な研究であるということであった。

その一方で、本論文の主題でもある寺院経営と言うときの経営とはどういうことか、寺院経営の危機とは何を指しているのか、過疎化は寺院経営のどこに関係しているのかといった本質的な問題については曖昧さが残ったため、委員から質問がなされたが、これらに対しては一定の水準を満たす回答が得られた。

以上により、博士(学術)の学位を与えるに十分な学力と見識を有するものと認定した。

授与する博士学位 学術

最終試験結果  合格  不合格

試験委員

主査 (氏名) 桑原季雄

副査 (氏名) 西村 明

副査 (氏名) 渡辺芳郎

副査 (氏名) 印

副査 (氏名) 萩野誠